

2017年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2018年 8月 26日
氏名： 小柳 真裕	実施国： カンボジア	協力活動
活動名称	カンボジア王国ポーサット州における幼児教育サポート（移動図書・おもちゃ館）プロジェクト	
実施期間	2017年7月～2018年6月	
(1) 申請した動機		
<p>カンボジアでは、ようやく近年になって政府が幼児教育に目を向けだしたところで、まだまだサポート体制が整っておらず、教員が教材や新しいアイデアを得る機会がほとんどない状態である。特に活動場所であるポーサット州においては、多くのNGOがカンボジア国内で活動しているにも関わらず、幼稚園（公立幼稚園、コミュニティ幼稚園、家庭保育を含む）を支援しているNGOは数団体、限られたエリアにしかない。小学校併設の公立幼稚園にいたっては学校から支給される教材は皆無に等しい。また、幼稚園児向けの絵本はカンボジア国内を探しても数十冊、良いおもちゃなどの教材もほとんど手に入らない。また、いい絵本が市場に出回っていないこともあり、一般家庭で絵本の読み聞かせを行うという環境がない。そこで、Tuk Tuk for Children (TT4C) という団体(参考：www.tuktuk4children.org)を立ち上げ（オーストラリア認定チャリティ団体）、そのプロジェクトの一環として、2017年2月から試験的に移動図書・おもちゃ館を通して公立幼稚園をサポートしている。</p> <p>活動は、私たちの趣旨に賛同して頂いているカナダカルガリーロータリークラブから助成金を頂いてプロジェクトを進めていたが、活動していく中で、日本やオーストラリアからたくさんの絵本やおもちゃのドネーションを頂けることになっていったが、輸送費等の工面が難しく、また、活動が進むにつれスタッフ不足にも悩まされていた。さらに、前回行ったNGO Sipar(カンボジアの図書館普及事業を行っているNGO)による読み聞かせワークショップが好評でその団体のワークショップを再度企画してほしいとポーサット州教育局幼児教育課からお願いされていた。そこで、今回の帰国隊員青年支援プロジェクトへの応募に至った。</p>		
(2) 活動内容概要		
<p>6校の幼稚園をサポート。(2校は独立型の3, 4, 5歳児教室がある幼稚園、4校は小学校に併設型の5歳児教室のみの幼稚園) ークラス21～71人。          受益者：ポーサット州教育青年スポーツ局幼児教育課5名、幼稚園教員17名、園児約501名</p> <p>活動1. 移動図書館・おもちゃ館による絵本や紙芝居、おもちゃの貸し出し。ポーサット州教育青年スポーツ局幼児教育課や地元のNGOと協力をし、6つの幼稚園と1つの障がい児学級(図書のみ)をサポート。月に1回(月末もしくは月初め)幼稚園を訪れ、絵本やおもちゃの交換を行う。</p> <p>活動2. 月に1度、幼稚園を訪れた際に、絵本や紙芝居の読み聞かせ、ゲーム等を用意し、毎月新しいアイデアを教員や園児に紹介。</p> <p>活動3. 政府が発行している幼稚園カリキュラムに合わせたカード教材を作り、幼児教育課や各幼稚園と共有する。</p> <p>活動4. 幼稚園教員向けのワークショップを開催する。</p> <p>活動5. カンボジア国内外の絵本やおもちゃを作っているNGO、会社などに連絡を取り購入。日本やオーストラリアから絵本やおもちゃの寄付を募る。</p> <p>活動6. 日本で活動報告をし、寄付やボランティアを募る。</p> <p>活動7. 作成した教材(歌、ゲームのテンプレート、アイデア等)をすべてオンラインで共有する。また、養成校で習う歌の音源を作り、オンラインで共有する。</p>		

### (3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

#### 【活動の成果】

この1年の活動の1番の成果は、ポーサット州教育青年スポーツ局幼児教育課の課長に活動を認めてもらったこと。カンボジアでスムーズに活動するにあたり、政府のサポートは必須なので、彼女の信頼を得られたことは大きい。具体的な活動成果は下記の通りである。

- 活動1. 月に1回（月末もしくは月初め）幼稚園を訪れ、絵本やおもちゃの交換を行った。最後の4か月は、絵本とおもちゃの数を倍に増やすことができたため、教員からこれからは交換するのは2か月に1度がいいという要望を受け、2か月に1度交換することになった。
- 活動2. 月に1度、幼稚園を訪れた際に、絵本や紙芝居の読み聞かせ、ゲーム等を用意し、毎月新しいアイディアを教員や園児に紹介。絵本やおもちゃを交換しない月にも訪問した。手遊び歌やカリキュラムに沿った内容の歌を英語や日本語の歌からカンボジア語へ12曲編曲した。
- 活動3. ピクチャーカード：16種類 文字カード：2種類 数字カード：3種類 ゲーム教材：10種類。訪問時に実際に見せるだけでなく、カードを使ったゲーム例集を教員に渡した。
- 活動4. 幼稚園教員向けのワークショップを4回開催。  
ワークショップ1：NGO Siparによる読みきかせワークショップ（助成金前、2017年5月）  
ワークショップ2：TT4Cによる教材作り（主に歌関連）ワークショップ（2017年8月）  
ワークショップ3：TT4Cによる教材作り（主に工作関連）ワークショップ（2018年3月）  
ワークショップ4：NGO Siparによる読み聞かせワークショップ第2回（2018年5月）
- 活動5. カンボジア国内外の絵本やおもちゃを作っているNGO、会社などに連絡を取り購入。絵本は、プノンペンで行われたブックフェアや、調べた出版社などとコンタクトをとった。現在総数217冊。足りない分は、カンボジア国外（主に日本、オーストラリア）から1000冊以上の寄付を受ける。おもちゃは、日本やオーストラリアからセカンドハンドショップや家庭で使われなくなったものを寄付してもらったり、オーストラリアの木の手作りおもちゃを作る団体が木製おもちゃを作ってくれたりもした。
- 活動6. 12月に日本へ帰国し、その際に大学2つ（慶応大学藤沢湘南キャンパス、福岡女学院短期大学）とサポーターである福岡にある英会話学校で活動報告を行った。また、カンボジアへ帰国のさいに、日本各地や幼稚園から預かった絵本やおもちゃを、100kg分持って帰ってくることができた。
- 活動7. これに関しては、ウェブサイト上にページの作成はできたものの、オンラインで公開するにはいたっておらず、今後力を入れていく。

#### 【苦勞した点・反省点等】

苦勞した点は、ライブラリー導入に対して、教員を受動的ではなく主導的にさせること。どうしてもこちらが提供する側、教員が受ける側になってしまい、せっかくライブラリーを提供しても、物がなくなったり壊れたりすることを恐れてあまり使用してもらえなかったりしたので、できるだけ教員へ安心感を与え、与えられた物としてではなく、彼らの教えるための道具の一部として扱ってもらえるようにワークショップで実際におもちゃや絵本を使った活動を紹介するなどの努力をした。全教員とは言わないが、半数の教員は積極的に活用してくれるようになってきている。また、ライブラリー交換時に、貸し出したものがすべてあるかチェックしているのだが、ライブラリーが大きくなってきたことによるチェックするために割く時間が増えてきており、うまく子どもたちの休憩時間に被らないと、教師の時間を奪ってしまうことになってしまっている。そこで、今後はライブラリー交換時のチェックシステムの新しいやり方を探ることが必要だ。

また、絵本の翻訳がカンボジア人スタッフ任せになっていることが反省点。教員からの翻訳のフィードバックはよいので、大きな問題にはなっていないが、たまに間違いが目につくことがあるので、今後はスタッフが翻訳する際に意味を一緒に確認したり、翻訳語の確認も行っていきたい。

#### (4) 今後のプラン

今後も、引き続き移動図書・おもちゃ館の活動を続ける。現在はポーサットのローカル NGO の管下で活動を行っているが、今後はカンボジアのローカル NGO としての登録をし、独立して活動する予定。ポーサット州教育青年スポーツ局幼児教育課から、11 月の新学期から 2 つの幼稚園を加えて欲しいと要望がでていて、現在の 6 校 7 クラスから 8 校 15 クラス（幼稚園に複数クラスある幼稚園へは各クラスに棚を設置し教材がいきわたるようにする）へ拡大する。今後ますます絵本とおもちゃ、学校教材の数を増やしていく予定。また、幼児教育課から、教員へのワークショップの一貫で、隣の州のモデル幼稚園（日本の団体、シャンティ国際ボランティア会が支援）への見学ツアーができないかと打診されているので、もし資金が調達できればそのような機会も作りたい。また、教材のオンライン化が計画通り進まなかったため、今年度こそオンライン化を進め、カンボジア全土の幼稚園教員に広めていきたい。